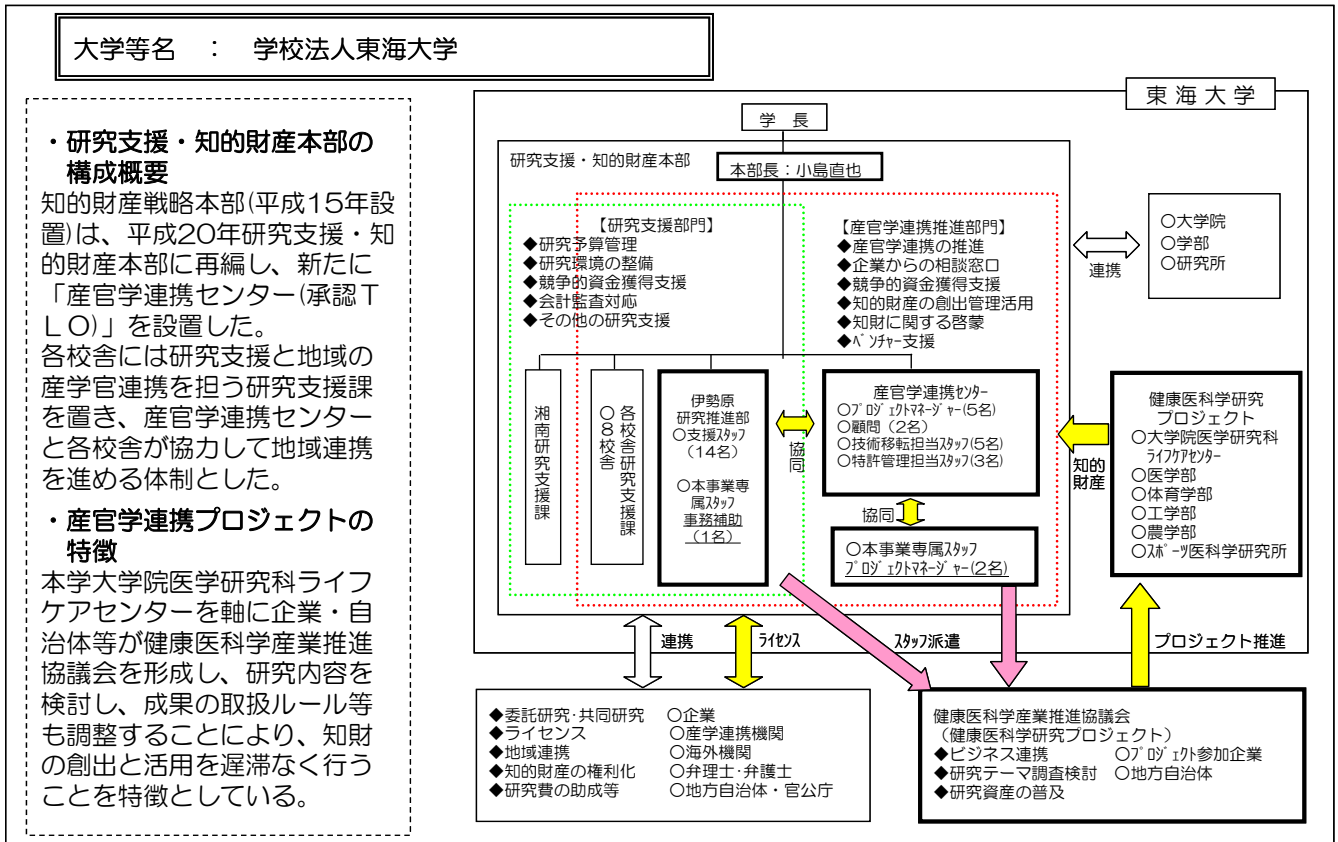


東海大学

○ 産学官連携体制図



○ 成果事例

ユビキタス・エイジングコントロール(UAC)支援システム

学校法人東海大学

要約

東海大学は、プロジェクトの代表として芝浦工業大学、国士舘大学などと共同で、「地域コアによるユビキタス・エイジングコントロール(UAC)支援システム」の研究開発の実証実験を平成21年9月から3カ月間、東京・多摩市民100人を対象に行った。これは、「老化に上手に向き合い、心身ともに健やかに豊かに老いる」ことを目指して、低コスト、高品質の高齢者生活支援システムを構築することを目的とした研究である。本研究の特徴は、情報通信技術(ICT)の一つである「ユビキタス技術」を活用して、いつでも、どこでも、だれでもが個々の運動や健康に関する情報を取得し、また一方で集まった個人のデータを、医学的根拠のある情報として活用することであり、将来は事業化を予定している。

コンシェルジュセンターでの運動指導の様子(東海大学公開HPに掲載)



個々に計測する日々の運動量・歩数や血圧、体組成(体脂肪・内臓脂肪・基礎代謝・筋肉量・骨量)のデータを被験者が携帯電話で読み取り、センターに送信してもらうことでデータベースを構築。また、健康や運動の総合相談所「コンシェルジュセンター」を多摩市永山に設け、得られた情報を基に専門の指導員たちが、個人に応じた健康づくりを個別にアドバイスした。

創出

産学官連携のきっかけ(マッチング)

本学が持つ医学的知見を基に、運動や栄養などについて研究するさまざまな企業と共同で実施中の健康医科学研究協議会の研究の一環でユビキタス特区モデル事業。将来的には、これらの情報を地域住民の生活支援や都市づくりなどにも応用できるよう、基盤を整えていく。

共同研究 ※

- ・東海大学、国士舘大学、芝浦工業大学
- ・健康医科学産業推進協議会参加企業(タニタ、三菱化学)との実証事業化研究

整備

知財管理(特許化、知財保護)※

- TMHS(Tokai Medical Health Science)の商標の適用
- 健康医科学成果については更なるデータ解析後、知識の権利化を予定している。

活用

技術移転の概要

成果内容の事例

産学官連携をし、ICTを活用することにより、従来の10倍以上の健康指導を可能にすることを実証した。

●市場への貢献

健康寿命2年延伸で高齢者の要介護者数比1/7→1/10で年間8兆円公費節約、開連市場数兆円創出と30万人雇用創出のストーリーに貢献していく。

●技術の革新等によるイノベーション創出

従来の類似した実験では、データのエビデンスや健康医科学の視点が無く、単に歩いた、運動したというだけのものである。本事例は産学官連携による科学的なプロジェクトであったため、今後の説得力のある展開が図れる。

●地域との連携

東京都多摩市の健康推進課の支援を受け実施。今後継続して市の活動とリンクして行く予定。

●人材育成

多摩市にある国士舘大学体育学部の学生に対しスポーツ医学の実習として本システムのコンシェルジュを体験させることにより、高齢化社会における健康産業の担い手候補生としての育成に貢献。

●事業化への展開

本事例は将来の事業化を意識して実施された。参加者からも事業化についての意見を集め、コスト分析も行い、将来の健康医科学協議会を母体とした事業化を検討する出発点となった。

連携機関

- 国士舘大学体育学部 渡邊剛学部長、芝浦工業大学システム工学部 松下潤教授、岡村宏教授
- 多摩市 健康管理課 永尾課長、三菱化学 コーポレートマーケティング部 高田真人部長
- (株)NTTドコモ 竹田義行執行役、㈱タニタ 開発部 佐藤富男課長